

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：44409

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00900

研究課題名(和文)協同学習支援を用いた英語ライティング指導の試み

研究課題名(英文) Exploring Japanese EFL Students' Writing through a Collaborative Approach

研究代表者

仲川 浩世 (Nakagawa, Hiroyo)

大阪女学院短期大学・英語科・教授

研究者番号：70571595

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、対象を学習意欲の低い初・中級レベルの大学生に限定し、第二言語ライティング・修正フィードバック支援を理論的に考察し、教員主導型の3つの実践の効果を探ることを目的とする。まず「ライティング協同学習支援法」を構築し、授業内で実践を行った。次に、教員による学習者の気づきを促す「内省的フィードバック」を与え、自分の誤りを省みる内省的な書き手育成を試みた。最後に、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、遠隔でも取り組みが可能となる授業外課題を考案した。その結果、本研究は調査協力者のライティングに対する苦手意識を軽減させ、自律的な書き手育成に寄与したことが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本調査では、対象を学習意欲の低い初・中級レベルの学習者に焦点を当て、教員によるフィードバック支援を通じた実践研究を実施した。学習者のフィードバックに対する姿勢や志向の違いから、ライティング能力の発達は異なる。そのため、習熟度や学習意欲に見合ったニーズ分析と、学習方略を考慮した支援法の考案が求められた。また、教室外においても、教員と学習者間のコミュニケーションの促進によって、ライティング能力の発達と学習意欲の向上が可能となった。このように、教員のフィードバック支援を基にした実践研究の枠組みを提示し、今後の指導法の方向性が示唆されたという点において、本研究は意義あるものとみなされる。

研究成果の概要(英文)： This study explores how the writing abilities of demotivated low-intermediate Japanese students are affected by three different versions of a collaborative approach with teacher support. Each approach is based on written corrective feedback within a specific theoretical framework. The first was collaborative writing, in which students engaged in process writing with their peers and core elements of writing were established and practiced during class. In the second, an attempt was made to foster reflective writers by providing teacher feedback designed to promote self-reflection in students and thus equip them with the ability to identify and self-correct any errors. Finally, due to the coronavirus pandemic, homework was designed to be accessed remotely. Results show that the target students experienced reduced levels of anxiety toward writing, the start of the process of becoming autonomous writers.

研究分野：英語教育学

キーワード：英語ライティング 協同学習 修正フィードバック支援 学習意欲 課題 動機づけ

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究の問題の所在として、(1) 日本人学習者の大学入学前のライティング学習不足による苦手意識と (2) 学習意欲の低い学習者の課題といった二つの視点から述べる。

(1) 日本人学習者の大学入学前のライティング学習不足による苦手意識

ライティング指導に関する実態調査(保田・大井・板津, 2014)によれば、回答者の70%が大学のライティング授業に対して準備不足であるとの見解を示している。一方、高校の授業では、文法やリーディングは重視されているが、書くことに対する指導の割合は不足している(ベネッセ教育総合研究所, 2016)。すなわち、高校と大学の授業内容に差があると推察される。大学では「自分の知識や考えを文章で論理的に書く」ということが求められる。この現状から大学の英語学習のつまづきの原因は、「ライティング」であるということが想定される。よって、本研究は、大学生のためのライティング指導法に焦点を当てた。

(2) 学習意欲の低い学習者のための指導法の探求

協同学習とは、コミュニケーションな活動を通して、学習者同士がお互いに協力し、より効果的に教室内のインターアクションを促進することを示す(江利川, 2012)。つまり、教室環境を活性化させ、学習者は英語コミュニケーション能力を発達させるのである。にもかかわらず、この状況が可能となるためには、積極的にグループワークに参加する必要がある。しかしながら、全ての学習者が必ずしもグループワークを好むとは限らない。言い換えれば、教員の支援の伴わない学習者中心の活動は、不安感を引き起こしてしまう可能性もある。その上、学習意欲の低い学習者のためのライティング指導法は、まだ確立されてはおらず、フィードバックと動機づけの研究も不足している(大関他, 2015)。そこで、研究対象を学習意欲の低い、日本人学習者に限定し、教員のフィードバック支援の伴った実践研究を行った。

2. 研究の目的

本研究は、コミュニケーションな英語の授業を苦手とする、初・中級レベルの大学生を対象に、第二言語ライティングにおける修正フィードバック支援の理論的背景を考察し、学習者主体の指導を根本的に変えた、教員主導型の支援法の提言を目的とする。特に、成果物であるライティングと振り返りシートに対して、教員の修正フィードバックと励ましのコメントである気づきを与え、学習者との信頼関係の構築を試みる。実践上では、個々の学習者のニーズを探り、教育的示唆から得られる支援法を考察する。

3. 研究の方法

本研究の主な研究方法は、下記の3点となる。

(1) ライティング協同学習支援法の探求

教員のフィードバック支援と協同学習を組み合わせたライティング指導モデルを設定し、その有効性を調べた。本研究は、短期大学生 必修英語単位未修得学生 1年生 13名を対象に11日間の集中講座内で実施された。学習者は学習意欲に困難を抱えていたため、指導法、副教材において工夫が求められた。特に、① ライティング能力の発達、② 学習活動支援による意識の変容に注目した。

(2) 内省的フィードバックの影響

(1) 同様に、単位未修得学生である、短期大学生 17名を対象に研究を行った。本調査では、授業内ライティング活動(ブレイン・ストーミング、アウトライン、パラグラフ・ライティング作成)に注目して、「内省的フィードバック」の影響を検証した。言い換えれば、成果物に教員による学習者の気づきを促す直接的、あるいは間接的フィードバック、及び励ましのコメントを与えた。そして、修正済みの原稿を翌週パソコンで仕上げ、提出させた。また、その日の活動内容について、振り返りシートに記入させた。すなわち、「内省的フィードバック」の影響を分析したのである。

(3) 課題の可能性

前述した(1)(2)同様に、出席が困難な短期大学生 2年生 39名を対象に、不安感の軽減をねらいとした課題の可能性を検証した。具体的には、学習者に自分で写真を撮影させ、その内容を英語で描写する課題を指定し、ライティングと意識の変化を分析した。その上、2019年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、当初3年の研究計画を1年延長せざるを得ない状況となった。この現状を踏まえて、LMSを活用した新たな授業形態のあり方を模索した。

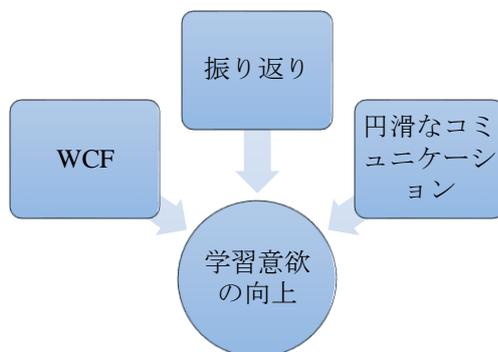
4. 研究成果

(1) ライティング指導モデル支援法

指導モデル内では、学習者にリーディング後コンテンツを言い換えさせ、プロセス・ライティ

ングへと導き、振り返りをさせた。そして、教員によるライティングの修正フィードバックと口頭による言い直しを提供し、振り返りには日本語でコメントを与えた。実践後、ライティングの伸長を測るために、総語数と「Test of Written English (TWE)」の得点を t 検定により分析したところ、どちらも有意に上昇した。さらに、ライティングに対する意欲も向上した。そのため、本指導モデルは、ライティングの能力の発達と学習意欲の向上に貢献したとみなされる。

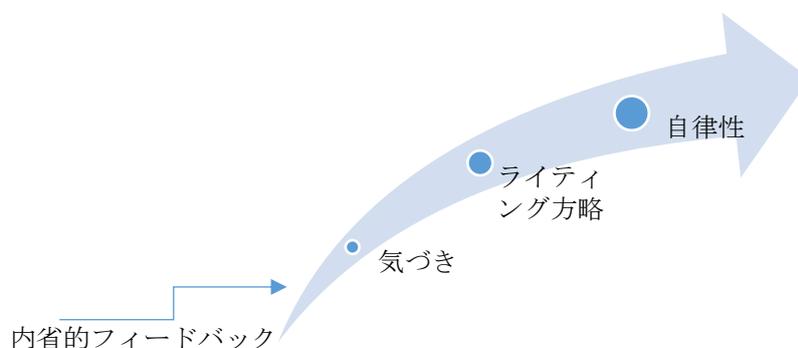
図 1. ライティング指導モデル支援法の効果



(2) 内省的フィードバック

ライティングと内省的フィードバックを導入し、指導前後のライティングの能力と意識の変容を検討した。その結果、対象学習者のフィードバックに対する言語面の気づき（語彙力、文法力の不足）が、ライティング方略の問題点（パラグラフの形式や文章執筆方法など）の認識へと変容した。最終的には、「英語は楽しい」と学習意欲を向上させたことが分かった。また、習熟度の低い学習者の方が、高い学習者よりもライティングの能力の伸長が顕著となった。一方、自分のライティングを振り返る学習者ほど、能力を伸長させたことも示唆された。その上、自分自身で見直しをするうちに、学習活動に責任を持つ、自律した書き手に成長するということも明らかとなった。しかしながら、学習意欲が高くても、伸びなかった学習者も存在した。したがって、今後の課題として、ライティング能力が伸びなかった学習者のための支援や、心理面の質的な分析が必要であると考えられる。

図 2. 内省的フィードバックの影響



(3) 今後の展望

本研究では、学習意欲の低い学習者に対するライティング指導支援に焦点を当てて、調査を実施した。課題の効果的な活用法も検討し、2020 年度以降はオンライン、ハイブリット型授業における ICT 機器の有効性にも着目した。今後は、本研究にて示唆を得た授業外課題の可能性と、コロナ禍でも導入可能な動機づけ向上を目指した支援法に関して研究を進めていきたい。

<引用文献>

- 江利川春雄（2012）『協同学習を取り入れた英語授業のすすめ』大修館書店。
- 大関浩美（編著）・名部井敏代・森博英・田中真理・原田三千代（2015）『フィードバック研究への招待：第二言語習得とフィードバック』くろしお出版。
- ベネッセ教育総合研究所（2016）「中高の英語指導に関する実態調査 2015」
<https://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=4776>
- 保田幸子・大井恭子・板津木綿子（2014）「日本の高等教育における英語ライティング指導の実態調査」*JBAET Journal*, 18, 55-78.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 Nakagawa Hiroyo, Leung Ambrose	4. 巻 18
2. 論文標題 The Impact of Implementing Homework on the Development of Japanese EFL Students' Writing	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Journal of Asia TEFL	6. 最初と最後の頁 1057 ~ 1065
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18823/asiatefl.2021.18.3.26.1057	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 仲川浩世	4. 巻 -
2. 論文標題 Eメール交換プログラムにおけるライティングと異文化理解への効果	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 CAJLE2021 Proceedings	6. 最初と最後の頁 142 ~ 147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 仲川浩世	4. 巻 51
2. 論文標題 内容重視型授業における異文化理解促進の試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪女学院短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 317 ~ 330
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 山本淳子	4. 巻 30
2. 論文標題 大学生が活用するICTの機能と学習意欲の関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 英語授業研究学会紀要	6. 最初と最後の頁 1 ~ 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本淳子	4. 巻 18
2. 論文標題 A Case Study of EFL Students' Motivation toward Online Exchange Programs	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪女学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 51～72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamamoto Junko, Teaman Brian	4. 巻 -
2. 論文標題 Students' Views on ICT for English Learning During the Pandemic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JALT Postconference Publication - Issue 2020.1; August 2021	6. 最初と最後の頁 338～348
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.37546/JALTPCP2020-42	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 仲川浩世	4. 巻 50
2. 論文標題 オンライン授業における大学初年次教育：学習者の気づきを促して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大阪女学院短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 167-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 仲川浩世	4. 巻 42 (1)
2. 論文標題 一般目的の英語専攻の中級レベルの日本人学習者を対象としたライティングのニーズ分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本教科教育学会誌	6. 最初と最後の頁 27-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18993/jcrda.jp.42.1_27	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakagawa Hiroyo, Leung Ambrose	4. 巻 13
2. 論文標題 The Effects of Implicit Learning on Japanese EFL Junior College Students' Writing	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Instruction	6. 最初と最後の頁 637 ~ 652
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.29333/iji.2020.13141a	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 仲川浩世	4. 巻 108
2. 論文標題 英語ライティングにおけるフィードバック研究の概観—今後の導入の可能性—	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 関西外国語大学 研究論集	6. 最初と最後の頁 257-267
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 仲川浩世	4. 巻 67
2. 論文標題 短期大学生の英語ライティングにおける内省的フィードバックの効果	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部 (文化教育開発関連領域)	6. 最初と最後の頁 115-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/46776	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Nakagawa Hiroyo, Leung Ambrose
2. 発表標題 A Homework Project for Japanese College Students with Writing Anxieties
3. 学会等名 Sociolinguistics Symposium 23 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 仲川浩世
2. 発表標題 協同学習支援を用いた英語ライティング授業実践
3. 学会等名 第52回(2021)中国地区英語教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 仲川浩世
2. 発表標題 Eメール交換プログラムにおけるライティングと異文化理解への効果
3. 学会等名 カナダ日本語教育振興会2021年次大会(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 仲川浩世, 安田優
2. 発表標題 ディズニー素材を用いた英語教育の一考察
3. 学会等名 ATEM(映像メディア英語教育学会)第26回国際大会(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 仲川浩世
2. 発表標題 オンライン授業における大学初年次教育ー批判的思考力育成と学習者の気づき
3. 学会等名 JACET関西支部教材開発研究会 第16次プロジェクト第5回例会(Zoomのミーティング)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Junko Yamamoto, Tamara Swenson, Brian Teaman
2. 発表標題 Impact of the Pandemic on Attitudes Towards ICT in English Education
3. 学会等名 JALT International Conference (JALT 2020 Online) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroyo Nakagawa, Junko Toyoda, Moon Young Park
2. 発表標題 Enhancing false beginners' writing skills through collaborative writing tasks
3. 学会等名 Language in Focus (Dubrovnik, Croatia) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 仲川浩世	4. 発行年 2021年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 108
3. 書名 内省的フィードバックを取り入れた効果的な英語ライティング指導	

1. 著者名 山内優佳, 猫田秀伸, 大下晴美, Yukiko Taki, 辰巳明子, 仲川浩世, 浅井智雄, 達川奎三, 鬼田崇作, 田頭憲二, 阪上辰也, 松宮奈賀子, 篠村恭子, 近山和広, 又野陽子, 中住浩治, 階戸陽太, 藤居真路, 田中博晃, 土屋麻衣子, 平本哲嗣, 上原義徳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 溪水社	5. 総ページ数 336
3. 書名 深澤清治先生退職記念 英語教育学研究 (「内省的な書き手育成を目指した英語ライティング指導モデルの探求」を執筆)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	山本 淳子 (Yamamoto Junko) (30372832)	大阪女学院大学・国際・英語学部・教授 (34442)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関